

「仕える者に」

2014年10月11日

マルコによる福音書 10章 35節～45節。ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。」彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。」ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。

主イエスは三度目の死と復活について予告された。その直後、上記の会話がなされた。ヤコブ、ヨハネ兄弟が願いごとをしたいと進み出てきた。何が願いかと主イエスが問うと、あなたが栄光を受ける時、自分たちを右、左に座らせてくださいと言った。主イエスがイスラエルを解放して王になる時、左右の高い座を約束してくださいと言った訳である。主イエスは、あなた方は何を願っているか分かっていない。私が飲む杯を飲み、受ける洗礼を受けることができるかと問うた。彼らは高い地位につくことができるならば、どんな苦しみにも耐えようと「できます」と答えた。兄弟は、他の弟子たちを出し抜いて、このような願いをした。彼らの実家は雇い人がいる漁師で、いわば「網元」のような大手の漁師であった。周りを見て、自分たちが高い地位を得ることを当然と考えたのであろう。

これを聞いていた10人の弟子たちは腹を立てた。彼らもまた、高い地位を虎視眈々と狙っていた。毅然としてエルサレムに上る主イエスを見て、いよいよ時が来た、王になられる。その時、どの地位が得られるかが弟子たちの関心事であった。死と復活の予告を全く聞いていなかったということで、主イエスの深い孤独を思う。

主イエスは一同を呼び寄せ、弟子であることの証、またご自分の死の意味について語られた。神を知らない異邦人の世界では、支配者は民の上に君臨し、偉い人たちは権力を振っている。しかし、あなた方の間では、偉くなりたい者は仕える者になり、一番上になりたい者は人の僕（奴隷）になりなさい。私は仕えられるためではなく仕えるために、また人間の罪を贖う身代金として自分の命を献げるために来た。

人は皆、上昇志向である。主イエスは、それをひっくり返せと言われる。なぜなら、私は十字架の死によってあなた方の罪を赦し、神と共にある命を約束するからだと言われる。耳にタコができるくらい聞いたにもかかわらず、人の上に立ちたい私は一体何者なのか。